

# 山形在来作物研究会にもスポット

## 金丸弘美著「タカラは足元にある！」

食環境ジャーナリスト、丸弘美さんが、昨年12月の食総合プロデューサーの金「里山産業論」(角川新書)



に続き、いかに地方を元気にするかをさまざまな事例を紹介しながら伝えている

「タカラは足元にある！」

地方経済活性化戦略」を合同出版から刊行した。第1章では鶴岡市の「山形在来作物研究会」の取り組みについて紹介している。

地方でも都市でも、時代の流れに合わせて需要が変化しており、そうした変化

に柔軟に対応している事例や、他業種・他分野の連携によって新たな取り組みが生まれている事例を食、健康、伝統産業などを切り口に取り上げている。

著者の金丸さんは1952年佐賀県生まれ。地域に根付いた食文化を再発見し、地域活動のコーディネートやアドバイス、取材や執筆活動を精力的に行う。総務省地域力創造アドバイザーなども務めている。同書では、「歴史・文化から地域の独自性を発見し

食に活かす」として鶴岡市の「山形在来作物研究会」について取り上げている。地域食材を使った料理を提

供する料理家、地元の食材研究・調査をしている山形大農学部などの連携により失われつつあった在来作物が注目を集め、その土地ならではのものを食べたいという消費者の需要を生み、県外にもそういった取り組みが広がっていると紹介している。四六判、184ページ。1600円(税別)。